

令和2年度 南海少年寮 事業報告

I. 令和2年度 基本方針

令和2年4月には高知県社会的養育推進計画が取りまとめられる予定であるが、これによって高知県における児童養護施設を含む社会的養育の推進に向けて10年後の将来像と取り組みが示される。これを受けて、高知県の計画に沿った南海少年寮の中・長期的計画となる南海少年寮社会的養育推進計画を見直して取りまとめなければならない。これは単に小規模化といった施設整備のことだけでなく、南海少年寮の地域での役割やあるべき姿など、今後10年間の目指すもの、課題、取り組みの骨子を明確にするものであり、高知県の社会的養育としての役割を示すことでもある。本年度中に提出する事になるので、優先される重要事項であり、職員一人一人も関わりながら取りまとめていくことで、今後南海少年寮が進めていくべき事を共有していく。

また、再発防止委員会の報告取りまとめのため、重要なポイントとなる研修やケース会など試行錯誤しているが、一定の形に整えていき報告を取りまとめると共に、さらに研鑽を積み職員一人一人の資質向上、権利擁護推進へとつなげていかなければならない。

上記2つの重要事項の対応をしていくことを本年度の基本方針とし、各取り組みを行っていくが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い学校等が臨時休業になるなど、今までにない状況である。先が見通せない中、事業計画も変更せざるを得ないことも出てくると予想されるが、施設内で感染が発生すると施設内感染が危惧され事業継続も難しくなることも考えられることから、感染防止に力を入れ入所児童への適切な対処を行い、児童への安全・安心の確保を最優先としたい。

■ 総括

高知県社会的養育推進計画が4月に取りまとめられ、これを受けて、高知県の計画に沿った南海少年寮の中・長期的計画となる南海少年寮社会的養育推進計画を見直して取りまとめ、9月末に高知県へ提出した。

しかし、その後計画に関して具体的な動きが出来ず、令和3年度において確実に進めていく手立てをしなければならない。

また、再発防止委員会の報告取りまとめのため、重要なポイントとなる研修やケース会などを進めて、一定の形に整えていき報告を取りまとめる予定であったが、推進計画の具体的な動きが出来なかったこともそうであるが、新型コロナウイルス感染症への対応を優先したことから計画通りできなかった。

しかし、重要なケース会や優先すべき研修会、児童の正しい理解や共有のための、南海少年寮としてのアセスメントシートは研修を経て作成をした。今後、完成度を高める取り組みや、それを活用した取り組みが必要である。

新型コロナウイルス感染症の対応について、年間を通して様々な対応が必要であった。学校等の休業による児童への対応や、高知県の「感染症対応の目安」におけるステージを参考にした児童や保護者、職員への対応、マニュアルの作成、衛生用品の購入および備蓄用品の確保等、多くのことがあった。

その中で、児童や職員の協力、保護者の理解もあり、年度当初不足していたマスクや消毒液も、寄付や県からの支援で乗り越えることができ、国を含む高知県や高知市等から感染予防に関する補助金によって、各種衛生用品の購入や備蓄用品の確保もおこなえ、感染者も出ていないのは有り難いことであった。

今後も新型コロナウイルス感染症の対応は、変異株のこともあり、新しい情報や状況により柔軟かつ迅速な対応が必要であり、児童だけでなく職員を含めた健康・安全・安心の確保を最優先しなければならない。

II. 重点事項、具体的取り組み

① 社会的養育推進計画見直しの取り組み

総括に述べたように、見直して取りまとめ県に提出できた。しかしながら当該年度内は新型コロナウイルス感染症への対応を優先したことなどから、その後の対応が出来なかった。この推進計画は10年をスパンとしたものであることから、確実に進めていくためにはその基盤となるものの整備、短期・中期といった視点の取り組みを積み重ねて計画の達成へとつなげていかなければならない。

② 権利擁護推進への取り組み

これも総括で述べたように、再発防止委員会の報告取りまとめにはいたらなかったが、児童の正しい理解や共有のため、南海少年寮としてのアセスメントシートは研修を経て作成をした。しかし、書き方の統一や内容の充実等に関して、来年度も引き続き検討を加えていき完成させていく必要がある。また、作成だけでなく、アセスメントシートを活用した事例研修やケース会につなげていかなければならない。

施設外研修は、ほとんど中止や延期となり、年度末に予定されていた研修が一部オンラインでの研修となったが、ハード面で対応できなかった。来年度もコロナ禍では、ZOOMなどを活用したオンライン開催のものが増えると予想されることから、対応でき

るようハード面の整備が急務である。当年度内には、Wi-Fi 環境の再整備をおこなった施設内研修は、時間が取りにくい中でも重要なケース会、熱性けいれんに関する研修、感染管理専門家を招いて新型コロナウイルス感染症への対応に関する研修、アセスメントシート作成への取り組みをおこなった。研修ではないが、処遇検討委員会で処遇の検討や統一を図り、医療対応明文化チームで、予防接種後に熱性けいれんや高熱を出す幼児に対する対応を検討した。

小規模化へ向けた取り組みとしてグループ制を取り入れているが、児童、職員のグループがより主体的にグループ活動をおこなえるように前年度より予算確保と自由度を一定担保することをおこなった。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な制約があり十分な取り組みには至らなかった。来年度以降もコロナ禍の中で出来ることを考えていかなければならない。

③ 各種見直しへの取り組み

新型コロナウイルスへの対応や児童に関することを優先し、出来る範囲で施設内研修等の時間を取ったこともあり、十分に出来なかった。

来年度以降もコロナ禍の中では、優先順位を付けできるものからおこなっていかなければならない。その中でも、社会的養育推進計画の遂行においても基盤となる理念・基本方針の見直しへの取り組みをおこない、施設の方向性や新たに求められる職員像を明確にしていく必要がある。

第三者評価の受審において、前回より評価が上がったものもあるが、明文化できていないものが多く評価が上がらないものが多くあることは課題である。

④ 地域貢献とそのための具体的施策の検討

毎年実施していた南少夏まつりは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止した。また、PTA など協力できるものはあったが、みさとフェアや地域の行事等も中止となった。来年度以降もコロナ禍の中で南少夏まつりの実施は困難と思われるため、別の形で地域との関わりが出来るものを模索しなければならない。地域の活動においては、出来る範囲で協力していく必要はある。

防災行事の実施とともに、備蓄品を充実させることはできた。

社会福祉法人として地域における公益的な取り組みとしては、高知市社会福祉法人連絡協議会の会員として、情報収集や他法人との連携など研鑽を積んでいる。本年度は、複数の部会を設置して具体的検討に入っている。当法人としては、災害対策連携部会に所属している。

Ⅲ. 主な事業

年間を通しての事業

(1) 子育て短期支援事業

延べ2名 延べ20日

※ 幼児の要請が多くあるが、幼児部屋がいっぱいのためお断りせざるを得ない。

(2) 防火訓練は毎月おこなった。

令和2年1月17日、年1回の風水害に対する訓練をおこなった。

令和2年11月24日、年1回の防犯に対する訓練をおこなった。

令和3年1月17日、年1回の防災訓練となる防災行事をおこなった。

その他

一時保護委託 延べ5名 延べ550日